

われら、五年ニッコリクラス！！

小林 由 依

ある、とても仲の良い学校があった。その学校の五年二組は学校の中でも一番仲が良くほかの学年から、『ニッコリクラス』とよばれていた。五年二組の中でも一番明るい、なつみちゃん、ニックネームなつちゃんは、学校の悲しい顔をしている子、泣いている子をすぐに笑顔にさせてしまう力があつた。自分では、気付いてないけれどね！！

ある朝、いつものように、元気に走って学校に行った。ガラツといつものように元気にドアを開けて、大きな声で「おはよう！！」

と言った。いつもだったら、みんなが、おはよう！！やなつちゃんおはようとかの返事がくるのに、今日はみんな暗く

て、あるところではケンカもしている。こんな事ははじめて！！親友のりつちゃんに、

「みんな、どうしたの？」

と聞いても、無視。どうして？となつちゃんはこわくなってきた。でも、まずはケンカをとめなくちゃと思い…

「ケンカなんて、つまらないことやめな」

と大きな声で言うのと、みんなが、私をにらんできた。みんなで育てている花もしょんぼりしている。

私は、なぜか一人で教室を出て、学校のおくへ、おくへと進んでいった。もう、いき止まりというところで、大きな声で泣いた。久しぶりに泣いたらスッキリした。教室へもどうとうとしたら、

ら、

「助けて、助けて」

という小さな声が聞こえてきた。その場所をさがして、かけつけると…。なんと！小さな小さなようせいがあったのです。すぐに、助けてあげると、

「あなたが、なつちゃん？」

と聞いてきた。初めて会うのに、なんと名前を知っているのか、などという質問が頭を駆けめぐった。なにがなんだか、わからなかったので、目を丸くしていると、

「あ、そうだ！！助けてくれたお礼に、三つ願い言をかなえてあげる」

とニッコリとようせいが笑った。なつちゃんは、どうしよう！！と胸をおどらせた。でも、一つしか願い言はなかった。それは、クラスをもとどおりにして。ということだけだった。

「わたしの願い言、一つでいい？」ようせいはビックリしているように

あつたがくんと首をうごかして、なに？というように聞いてきた。

「えーと…クラスを元どおり仲良くして!!」

と言うと、ようせいは、ダメと言いつつ、顔をくもらせて、飛んでいってしまつた。

キーンコーンコーン…と帰りのチャイムが鳴る。その日は、みんなケンカばかり。先生までもが、みんなどうした？と不思議に思つたらしい。家に帰ると犬の『ケン』に、エサをあげる。いつもだったら学校であつたおもしろかつたことを、話すけど、今日は、

「なんか…みんな、ケンカしたり暗いし、どうしたんだろう」

と、言葉もはなせないケンに相談する

「ぼくたちは、はじめ仲が悪かつたのに、いまは、こんなに仲がいいよね!!」

なつちゃんは、犬がしゃべつたので夢かと思ひ、ほつぺをひっぱつた。しかし、いたいのので夢じゃないことがわかつた。なぜ？と思いつつ、話を聞いていたら、

「ぼくたちが、仲良くなつたような方法で、みんなを仲良くさせてみたら？」

とケンが言つた。なつちゃんは、ありがとうと言つて、家の中へ入つた。ケンは、うまくいきますように!!と心のなかでいのつていた。

次の日、ケンに、がんばつてくると言つて走つて学校へ行つた。ガラツ、今日も元気にドアを開ける。今日も昨日のような感じだつた。が、今日のなつちゃんは昨日とはちがう。なぜつて？ケンの言葉が勇氣に変わったからだ。

私は思い出したのだ。ケンがはじめてわが家に来たことを。おつかなビックリだつこして、子犬のケンに私から心を開いたことを。まず、私から声をか

けていつた。相手も、口数がすくなかつたのに、だんだん、話してくれた。みんなは、だんだん笑顔がもどつてきた。それから、いつものようにみんなで楽しそうに話している。私はよかつたと思ひ、教室の後ろに行つた。今日は、花もうれしそうだ。

ふと、横を見ると、あのようせいがちよこんとすわつていた。私は、ようせいに

「ありがとう」

とお礼を言つた。ようせいは、なんで？と言う。私は、

「だつて、願い言をかなえてくれなかつたから、みんなを笑顔にできたし、一番よかつたのは、心を開いていくと、笑顔にできる。という大切なことを教えてくれたんだもん」

ようせいは、逆に、

「ゴメンネ」

とあやまつてきた。ようせいは、その

後すぐに、

「私、ずっと一人ぼっちだったの。あの時、この教室の前を通ったら、みんな笑ってて、うらやましくて、にくくなつて、そしたら、魔法で、このクラスから、笑顔が消えるってしちゃったの。だけど、あなただけ、魔法にかからなかったわ。それは、魔法の力よりあなたの心のほうが強かったからよ。だから、本当にゴメンネ」

と言ってきた。だけどおこらなかつた。たぶん、私は、心が強くなつたのは、ようせい魔法をかけてくれたからだ、と思つたからね。

私は、ようせいにむかつて、首をふつてから、手を差しだした。ようせいも、手を差しだして、ニッコリと笑つて、あく手をした。このことは、私もようせいも一生わすれないと思う。それは、ようせいにとつては、はじめて心があたたかくなつたこと。そして、私は、

大切なことがわかつたこと。だつたからね！！泣いている子がいたら、よんでごらん、ニッコリクラスが、かけつけて、笑顔にするから。その中には、なっちゃん、ようせいごとびきりの笑顔でニッコリにさせて、みせるから。